

# 11月定例記者会見 会見録

令和6年（2024年）11月12日（火）11:00～11:56 庁議室

## 質疑応答

### ■「つくば市長（2期目）の行政運営」のインターネット模擬投票結果について

#### 記者 A

質問が3点あります。まず、今回のインターネット模擬投票を実施した感想をお伺いします。2点目は、実施後に見えてきた課題などがありましたら教えてください。3点目は、模擬投票を行った方の総数が1,048人とのことですが、投票率で言うと何%程度になるのか教えてください。

#### 市長

感想を一言でお伝えするのはなかなか難しいのですが、色々課題から整理しています。そもそも今回のインターネット投票のプロセスで、目指していたことがいくつかあります。それは、市民が政治家の実績評価をする機会を、選挙以外でつくること。投票が無駄ではなく、結果に必ず影響を与える仕組みをつくること。「つくスマ」のダウンロード数を増やし、市民が日頃から市政情報にアクセスしやすい環境をつくること。インターネット投票の経験値を積み重ね、国にその材料を提供すること、などがありました。今回、高いハードルだったのですが、1,000人を超える方が投票してくださって良かったと思っています。期間中に多くの方に言われたのは、マイナンバーカードの署名用電子証明書の6桁から16桁のパスワードを覚えておらず、ロックがかかってしまって投票ができなくなってしまったということです。市役所の窓口まで来ていただければ、ロックの解除ができるのですが、今回の投票のためにそこまでしていただくのはなかなか大変ですので、それは大きな課題の一つであったと感じています。それから、「つくスマ」を新たにダウンロードするのが手間だったとお声も聴きました。今回の期間中、「つくスマ」のダウンロード数を確認していましたが、通常よりもダウンロード数は増えました。通常は、1日10件から20件程度のダウンロード数ですが、今回の期間中は1日50件から100件程度まで増えました。また、セキュリティについてのご心配のお声が多かったと感じています。投票内容と投票者の個人情報は完全に切り離されており、個人情報は本人確認にしか使っていません。そうは言っても、それをどうしたら信用できるのかということに対しては、信用していただくしかないところがあります。それについては、今回のような投票を繰り返し行って、その仕組みを何度も説明して信用を積み重ねていくことがとても大事だと思っています。それから、よくいただいたお声としては、実績を評価するのがなかなか難しいということです。色々実績が出ているのは分かりましたが、そもそもそれに対して点数を付けることは重たいとも言われました。皆さんが真摯に政策の評価をしてくださること、それ自体がすごく大きなことだと思っています。全部を評価するのが大変な方は、ご自身の関心がある分野に絞るなど、評価軸は色々あります。それをやっていただいたのが、非常にありがたいと思っています。この1,048

人という数字についてですが、今回実は一つの基準として考えていた数字があります。1つは、唯一公職選挙で電子投票を活用しているエストニアで、それが開始された際の1.9%という利用率です。「つくスマ」のダウンロード数が開始時に2.2万件※1程度でしたので、まずはその1.9%、つまり420票※2は超えたいと考えていました。エストニアでは、実施する度に利用率が上がり、それから20年かけて利用率が50%を超えました。今回、スタートとして、その3倍まではいかなかったですが、2倍程度の数字になりましたので、そこは良かったと思っています。もう1つは以前、インターネット模擬投票を実施した際に、マイナンバーカードを持っている方1.4万人へはがきを郵送し、投票後に抽選で物産品をプレゼントする企画を行いました。その時の投票数は1,500人程度で、投票率は10%程度でした。毎回はがきを送ったり、物産品をプレゼントしたりするのは現実的ではありませんので、今回そのようなことは一切行わず、純粹に点数を付けていただきました。それでも、「つくスマ」のダウンロード数約2.2万件※3に対して4.5%※4程度の投票率となり、一定程度の評価ができると考えています。一方で、母数を15歳以上で署名用電子証明書の機能を有しているマイナンバーカードを持っている方に広げると、約13万人いますので、投票率は0.8%程度になります。マイナンバーカードを持っている方に、「つくスマ」のダウンロードをしていただき、実績評価して投票をしていただくというハードルをどうすれば下げられるのかについて、行政として様々な努力をする必要があると感じています。感想や課題などについてまとめてお答えをしましたが、新しいチャレンジとして目指していたことについて、できたものもあれば、パスワードやダウンロードの課題など、どうしたら変えていけるのかをテーマとして洗い出せたこともあり、良かったと思っています。

※「2万件」※1※3、「380票」※2、「5%」※4と発言がありましたが、訂正しております。

## 記者B

チャレンジして新たな課題テーマを洗い出せたとのことですが、今回の成果を次にどのタイミングで生かしていくのでしょうか。同様の投票を別の機会で行うのでしょうか。退職金については4年後までできないと思いますが、今後の見通しがあれば、教えてください。

## 市長

今回は退職金でしたが、その前は「映えスポット投稿」のインターネット投票を実施しました。次のテーマをどうするかについては、政策評価が良いのか、それとも別の形が良いのかなど現在、色々と検討をしているところです。今回もプロセスの中で、「毎年実施したら良いのでは」、「子育て政策など個別の政策ごとに意見募集したら良いのでは」など、様々な声がありました。今年度中にもう1回、インターネット投票を行う予定です。テーマはこれから選んでいきたいと思っています。今回とは別の切り口でできればと考えています。

## 記者B

細かい確認になりますが、今年度中にもう1回実施予定というのは、来年3月までにということですか。

#### **市長**

そうです。今年度中にはもう1回、何らかの企画を行いたいと思っています。今回、システム構築をしましたので、これを使いながら来年度以降も行っていきたいです。今回の退職金のインターネット投票のためにこのシステムを構築したわけではありませんので、そこはよくご理解いただけたらと思います。

#### **記者C**

評価率は0.627で、約63点とのことでした。以前、大学で教えていた際に、成績の付け方として「優」「良」「可」がありました。今は違うかもしれませんが、いわゆる「可」は確か下限が60点でした。今回は、「可」の下限に近い点数になりましたが、この結果について、どう思っていますか。

#### **市長**

どれぐらいの点数かというのは全然考えてはいませんでしたが、今回の市長選挙での得票率が50数%でしたので、その差分がどれぐらい出るかには注目していました。選挙直後でしたので、上に出るのか下に出るのか、どうなるのか興味深いと思っていました。結果としては、選挙の結果から1割ほど上振れをしました。そのギャップはどういうところから生まれたのかを今、考えているところです。

#### **記者D**

「つくスマ」のダウンロード数は現在、何件ですか。

#### **市長**

この期間中に644件増え、2.3万件程度になりました。

#### **記者D**

「つくスマ」をダウンロードした方が増えた期間は、いつからいつまでですか。

#### **市長**

インターネット投票開始前日の10月31日から投票終了前日の11月10日までです。最新のデータは明日頃に更新されると思います。直前の駆け込みが多ければ、もう少し増えると思います。

#### **記者D**

投票率は、マイナンバーカードを母数にすると約 0.8%で、「つくスマ」を母数にするときはその人数で計算すれば良いのですね。

#### **市長**

約 4.5%※5 になります。

※5 「約 5 %」と発言がありました、訂正しております。

#### **記者D**

評価率 0.627 というのは、要するに平均としては 62.7 点という理解で良いのですね。

#### **市長**

はい。

#### **記者D**

今回のインターネット投票について私が書いた記事に対し、反応してくださった先生がおっしゃるには、ロードマップが公表されていますが、あまりにも評価項目が多すぎるということでした。もう 1 つ、そもそも公約に対してやるのが前提になっていますが、中には要らないものもあるのではという批判がありました。私が疑問に感じているのは、達成 S や順調 A などの評価を付けていますが、これは市役所内部の評価であるということです。第三者機関などが評価して示しているものではありません。今は企業でもどこでも人材評価などを行っています、自分自身の評価をそのままダイレクトに反映することは、ほぼないと思います。達成度が、あくまでも市役所内部でどれだけやったかという評価になっています。効果測定は大事だと思いますが、市民にとってはあまり意味がないと言いますか。例えば、子育て政策に関してはできているが、高齢者政策がいまいちだなど、色々な考え方があると思いますが、数字を出して誘導的になっているのではと感じています。それについてはどう思われますか。

#### **市長**

冒頭におっしゃった「要らないものもある」というのは、公約の中に要らないものがあるのではということでしょうか。

#### **記者D**

公約を掲げられていて、それを色々と検証しているのですが、それを見た先生が、そもそもこの事業は要らないのではという話をしていました。

#### **市長**

ロードマップについては、様々な使い方があると思っています。今回の退職金のインターネ

ット投票をするためにロードマップを作ったわけではありません。ロードマップは毎年公表をして、進捗を皆さんにお示ししていくプロセスで出しているもので、今回の実績評価の材料の1つとしてみていただきたいと思いました。私にとって公約はすごく大事なものです。公約は市民との約束で、そこはきちんとお示しをしていく事が大事だと考えています。今回、公約に限らず、4年間で取り組んだ200数十項目の実績のリストと、地域ごとに何をやったのかということ在地図でお示しました。それらをご覧いただいて、その先はおそらくそれぞれの評価軸になっていくと思います。先程、子育て施策のお話がありましたが、例えば子育て施策の優先順位が高く、その方が子育て施策に満足していれば、全体として評価が高くなり、同様に例えば高齢者施策の優先順位が高く、その方が高齢者施策にご不満があれば、全体として低くなると思います。今回実際に、全部を見たという方から連絡がありましたし、子育て施策など関心があるものだけ見て投票しますという方もいらっしゃいました。こちらは材料を提供しますが、そこから先はそれぞれの判断になると思います。私は、選挙は政策で争いたいと考えていますが、必ずしも評価軸が、そうなるわけではありません。例えば、私のことを好きか嫌いも含めた評価軸も当然あると思っています。ただ、それを否定できるものではありませんし、嫌いな方は0点を付け、好きであればもしかしたら100点を付ける方もいらっしゃるかもしれません。嫌いでも政策を評価する方がいるかもしれないし、好きでも政策を評価しない方もいるかもしれません。私たちにできるのは、判断材料を提供することなのではと考えています。ただ、今回ロードマップなどがたくさんありましたが、市政全体について、例えばAIを使って質問すると、より分かるといったことがあればと思います。先日、初当選した市議が、これまでの市議の議事録を見ても全然分からないと言っていました。例えば、議事録を検索して、AIに「この市議の成果を教えてください」と質問したら、答えが出てくるといったものなどがあればと思います。今回の市長選挙は候補者が2人でしたが、市議会議員選挙は、選ぶのが難しいといった声もありました。そのような技術を、評価者の負担を減らすためのプロセスに入れていくことが、今後の課題だろうと考えています。選挙の投票は、名前を書けば良いだけですからまだシンプルですが、今回のインターネット投票はプロセスがとても複雑です。ただ、民主主義にとっては意義あることだと思っています。

## 記者D

今、民主主義というお答えがありました。退職金のインターネット投票は、私も点数を付けさせていただきました。そして今回で市長の退職金の額が決まりました。それが、一定の市民の市政参加と言えるのかもしれないですが、結局これを市長がどう受けとめるのかについては、ご自身の得票率が選挙結果よりも高かったという程度の受けとめで、例えばどう市政にフィードバックするかについては何も見えてきません。子育て施策なのか、あるいは周辺市街地振興なのかは分かりませんが、こういうことをやるのであれば、個別の政策について市民が意見を書き込めるなどの仕組みにしていけないと、民主主義がアップデートされていないような気がします。民主主義は、誰に対しても開かれていることが前提です。今回は

そもそも、スマートフォンを持っていない人は投票ができません。もちろん市役所の窓口でサポートはしているのですが、やや拙速、乱暴と言いますか。もともと市長は、退職金を0円にすることに賛成の人もいれば、貰うべきという人もいるという話をされていました。今年の8月ではなく、4年前の市長就任時にこういうことをやりますと発表していれば、選挙パフォーマンスや事前運動といった疑念を抱かれなかったと思います。その辺が付け焼刃感があると思いました。

## 市長

今回、民主主義の点から一番大事だと思っているのは、市民が選挙以外で評価をする仕組みだと思っています。選挙は、一度選ばれると、基本的にはよっぽどのことがない限りは4年間、そのままです。今回、テーマを退職金にしましたが、個別の施策や今後重要な課題が出た際に、住民投票をやるとなると、なかなかそれは大変です。しかし、これはきちんと1人1票が確保されています。インターネット上では、やろうと思えば1人で何百もの投票ができます。実際、SNS上で特に攻撃的な匿名アカウントは、数人が多くのアカウントを作っていることがあります。そうではなく、純粹に1人1票の行使を担保した上で、市民の声を聴くことができる今回のような仕組みは、民主主義にとって価値があると思っています。それを受けた側も判断しなくてははいけませんが、今回について言えば、こういう評価であることをまず受け止めた上で、どう分析するかというのはあります。私たちはどちらかということ様々な発信をしている方ですので、それが一方通行にならないことが民主主義にとって大事であると常に思っています。だから私は対話を大事にし、就任以来タウンミーティングを、オンラインでも行っています。そのプロセスの中で、例えばロードマップについては「達成」「順調」「おおむね順調」が86.1%ですが、それに対して皆さんから評価をしていただくことが双方向性だと思っています。最初にお話したように、個別の施策でこれから色々なパターンが考えられますので、それらを発展させていきたいと思っています。様々なパターンの投票があると思っています。今回が万全とは思っていません。以前から申し上げているとおり、全く選挙を意識したものではありませんので、そこはご理解いただければと思います。様々なパターンを具体的に積み上げていくことが大事です。これまでこのような仕組みがなかった訳ですから、そのような声上がるようになったこと自体、価値があると思います。これまで匿名性を担保しながら1人1票を確保することができませんでした。今回の取組を行ったことによって、皆さんに関心を持っていただいています。そうすると、議論が始まっていくと思います。「退職金ではなく、こういうテーマでやったら良いのでは」などの声が生まれてきます。大きくバツと一度に流すようなものではなく、一つ一つの積み重ねが大きな変化になりますので、色々試したいです。逆に、ご提案いただければ幸いです。例えば、メディアの在り方やメディアと行政の関係性など、テーマは色々あると思います。

## 記者D

これは、市長ご自身が意図していることではないと思いますが、退職金について投票するこ

とに対し、Xなどでも「非常に素晴らしい」と礼賛の声があります。「自分が住んでいる自治体の市長にもやって欲しい」、「国会議員にやって欲しい」などの声もあります。一方で、退職金に限っての話になりますが、これがどんどん素晴らしいという風潮になると、極端な話として、退職金についてはつくば市長の真似をしてインターネット投票で決めるというだけで当選するなど、市民の共感に寄り添うポピュリズム的な発想が蔓延していくのではと危惧している政治学者もいます。その辺をどう考えていますか。

## 市長

今のお話が、一般の方の感想なら分かりますが、政治学者の感想だということに驚いたのが正直なところですよ。それは大衆というものを見誤っているのではと思います。繰り返しますが、今回、大衆迎合とは真逆のことをやっています。今回、投票まで高いハードルがありました。単に好き嫌いの話ではなく、実績を読んで点数を10点刻みで評価してくださいとしました。さらに、パスワードの問題などテクニカルな課題もありました。大衆迎合やポピュリズムのように、耳障りのいいことを言ったのではなく、実際に投票をした方からは「実績評価は本当に難しい」、「30分考えて悩んだ」など、色々な連絡をいただきました。大衆迎合とは真逆のことをしています。今回投票してくださった方全員が悩んだ訳ではないと思いますが、点数を付けるという行為を求めましたので、政治学者の方が大衆迎合という言葉を使ったのであれば、もう少し理解をいただきたいという思いがあります。

## 記者D

悩んだ方がいるのは確かに価値があると思いますが、それは全く可視化されていません。その政治学者がおっしゃっているのは、退職金の額を投票で決めることが素晴らしいことだと礼賛されていくと、それだけで当選したりすることが怖いという話をしています。

## 市長

それだけで当選すると思いますか。

## 記者D

それだけでというのは極端ですが、実際に市民の共感を得る手法として、市長自身が市民の共感に寄り添うことで始めたものですよ。それは少なからずポピュリズム的な要素がゼロではないと思います。

## 市長

ポピュリズムという言葉はどういう定義で使っているかによりますが、私は寄り添うこととポピュリズムは全然違うと思います。一つ一つの個々人の課題に寄り添って、それを解決していくことが私の大事な仕事です。長期的な影響などを考えず、そのときだけの人気取りの政策をするのはポピュリズムと呼べると思います。今回のような退職金のインターネット投

票をして市民の意見を聴くことが、ポピュリズムという言葉で括られるのであれば、その定義から議論することが必要です。

#### **記者D**

市長としては、これだけで終わらせるつもりはないですか。

#### **市長**

全くないです。これまで繰り返しているとおおり、また別の形での投票を行います。このように議論を始めていくことが大事です。今回のようなことをしなければ、先程のような話も生まれませんでしたし、きっとDさんが政治学者と話すこともなかったのではと思います。そうやって対話が生まれること自体に価値があります。退職金の在り方の議論はありますが、それ自体もまた議論になれば良いと思います。退職金は満額を貰うべきだと多くの方に言われました。そういう方は、その評価軸で満額の点数を付ければ良いですし、1円も貰うべきではないという方は0点を付ければ良いということです。それぞれの評価軸や指標がある訳ですが、そうやって声を反映させていくことに対し、もし政治学者がそれはポピュリズムだと言うのであれば、そこに対しては異議を唱えたいです。

#### **記者E**

投票結果で、何点が何人いたかという点数の分布を教えてください。

#### **市長**

後ほど詳細資料を配布します。

#### **記者E**

お願いします。今年度中にもう1回実施したいとのことですが、また改修費に2,000万円がかかるのでしょうか。

#### **市長**

2,000万円は、今回の退職金のインターネット投票ではなく、今年度予算として当初から組んでいるものです。今回の退職金のインターネット投票に2,000万円かかっているわけではありません。そこをぜひご理解ください。インターネット投票では、「映えスポット投稿」も行いました。次も行いますが、毎回2,000万円がかかるという話ではありません。

#### **記者E**

次回のシステムを構築する際に、今年度当初予算から使うとして、これ以上かかる費用は無いということでしょうか。

## 市長

今回で投票システムはできていますが、もちろんサーバー費など個別のものは出てきます。システムの改修費用としては、今回は10点刻みの投票で、次回も同様の仕組みで行うのであればそのままが良いですが、どんな投票内容にするかによって作り方は異なってくると思います。基本的に、新たに2,000万円がかかることはありません。

## 記者E

そもそも国の予算が多くついたことにより、今回のシステム自体が出来たと思います。これを他自治体に広げることや、あるいはもともと目指していた選挙でのインターネット投票につなげるなど、つくば市としては今後どのように関わっていきたいと考えていますか。

## 市長

基本的に他自治体の取組は、他自治体で決めることですので、私がとやかく言うことではなく、良い政策であれば広がると思います。例えば、窓口対応の時間短縮は一気に全国に広がり、私のところにたくさん連絡が来ています。他自治体の方がやりたいと言え、市として内容はいくらかでも提供しますが、やったら良いよという話ではありません。当然、公職選挙におけるインターネット投票は実施したいです。それを目指して投票機会を確保するためにこのような事業を行っています。スーパーシティ型国家戦略特別区域として選ばれて、国とも様々な協議をしています。当然、今回のデータなども材料として提供していきたいと思っています。以前に当時の河野大臣は、国としては在外投票から始めていきたいという話をされていましたが、そういうことに対して、情報提供はこれまでもしていますが、これからもしていきたいと思っています。

## 記者F

今回の投票対象は15歳以上でしたが、15歳以上の市民の数を教えてください。

## 市長

15歳以上の人口ということですか。

## 記者F

はい。

## 人事課

10月1日現在の15歳以上の人口は21万8,721人です。

## 記者F

そうしますと投票率は、21万8,721人分の1,048人になり、かなり低いと思います。退職

金の1,278万円ですが、満額の2,000万円からの差額は茨城県市町村総合事務組合へいくと思います。それはいくらになりますか。

#### **人事課**

毎月、市から事務組合へ負担金という形で納めており、そのお金は事務組合によって退職金支払い等に使われていると認識していますので、差額がいくら発生するという考えではありません。あくまでも決められた負担金の額を、毎月納めている形になります。

#### **記者F**

その負担金はいくらですか。市職員の方が多く、市長の負担金はそんなに多くないということですか。

#### **人事課**

負担金は、給与月額に対し、1,000分の135という率が決められています。それに基づき、市長の分はいくら、一般の職員の分はいくらということではなく、つくば市の職員分として、総額いくらという負担金を毎月1回、納めています。

#### **記者F**

本来、貰える100%の額をあらためて教えてください。

#### **人事課**

退職金の額でよろしいですか。

#### **記者F**

はい。

#### **人事課**

退職金は満額ベースで2,039万4,000円です。

#### **記者F**

差額については、本来は貰えるものでしたが事務組合から貰わないということによろしいですか。

#### **人事課**

今回の結果を受けた市長の退職金は1,278万7,038円になりますので、差額分を貰う貰わないという発想ではありません。退職金はこの額になりますという事務組合の決定になると思います。

## 記者F

先程市長は、市民が評価する仕組みを今回初めて作ったとおっしゃいました。ただ、2年に1回、長年行っている市民意識調査でも、市政に対する評価がありますので、今回初めて作ったというのは少し違うのではと思います。そもそも今回のインターネット投票は、何のために行ったのかについて伺います。先程の質問にもありましたが、62.7点に対してどうするかフィードバックも無く、投票率に対してどうするかも具体的には無い中で残るのはパフォーマンスであることと、4年前にインターネット投票をやることを内閣府に約束したこと、この2つしかないのですが、それ以外の理由はあるのでしょうか。

## 市長

同じ話の繰り返しになりますが、今回とにかく重要なのは、市民の側が評価する仕組みを作ったということです。退職金の考え方については、以前の記者会見で話をしましたが、様々な声があります。1円も貰うべきではないと言う人と、満額を貰うべきだと言う人、半分貰えば良いと言う人。その様々な声があるものを、形として表現する手法が、これまでありませんでした。それらの市民の声を、全体の評価と掛け合わせ、きちんと反映させる仕組みを新たに作りました。そこには新たな価値があると思っています。何をもってパフォーマンスと言われているのかわかりませんが、新しいことをやれば目立ちますので、皆さんとしては面白くないところがあるのかもしれませんが、私としては今、そしてこれからも新たに取組むべきことがあれば、迷わずにやっていきたいと考えています。例えば、市民窓口対応の時間短縮は広まっていきましたが、それがパフォーマンスかと言われるれば、そうではないと思います。しかし、人によってはパフォーマンスだと捉える方もいるのかもしれませんが、それぞれの解釈で、どういう風に皆さんが評価をされるかということです。私からは申し上げませんが、客観的に事象として分析していただけますとありがたいです。

## 記者G

これから3期目となりますが、4年後に今回同様のインターネット投票を実施する考えはありますか。

## 市長

可能性は十分あると思います。ただ、それには当然、議会と相談をしないといけないし、このプロセスにおいて、今後4年間でインターネット投票がどのように変化をしていくかもありますので、絶対に実施しますとは言えませんが、可能性は十分あると思っています。

## 記者G

1期目の退職金は22円でしたよね。

## 市長

はい。

## 記者G

今回 62.7%で、1,278 万円の退職金になり、1 期目の 22 円よりも増えました。先程、結果の点数については考えていなかったとおっしゃいましたが、退職金が前回よりも増えたことに対する感想をお聞かせください。当初に考えていた金額より低いのか高いのかなど、率直な感想をお伺いしたいです。

## 市長

先程、お答えしたとおりですが、市長選挙の得票率が 50 数%でしたので、その時はこれが選挙で示された民意だと受け取っていました。それに対して、今回 1 割ほど上振れしているのをどう解釈するかについては、昨日投票が終わってこの記者会見の前に結果をいただいたばかりですので、これから様々な形で分析をしていきたいと考えています。退職金の額についての感想は、たくさん欲しかったとか要らなかったとか、そういった話ではないですから、正直持ち合わせていません。私としては、市民の声を反映する仕組みができて、今回の取組は意義があったと感じているところです。

## 記者G

仮に 4 年後に同様のインターネット投票を実施する際に、次は 100%を目指して頑張りますということでは全くないのでしょうか。

## 市長

今回、基準点が 1 つ生まれましたので、政治家として仕事をするからには、仮に同じ仕組みで行うのであれば、次回の点数は今回よりも上がっていなければと思います。市政として、何点でも良いということにはならず、次回からはここが 1 つの基準点になると考えています。

## 記者D

先程、パフォーマンスという言葉に対し、市長が「目立つことをすると、皆さんがそういう風におっしゃる」と言われましたが、私は別にこれが駄目という評価はしていません。退職金の決め方に対する新しい試みとかアイデアとして、あり得ることだと思っています。しかし、その実施を表明したタイミングが、なぜ 2 期目が始まったときではなく、今年 8 月だったのかをお伺いしたいです。

## 市長

2期目が始まったタイミングでは、何を基準にして評価をすれば良いのでしょうか。

**記者D**

そのタイミングでは、この項目で評価をして欲しいということではなく、「ロードマップを作っていて4年後にインターネット投票を行うので、皆さんよろしくをお願いします」ということであればと思いました。市長は、選挙目当てではないとおっしゃっていて、私もそうなのかもしれないと思う反面、疑いが残るのは、当初から退職金について賛否両論があるということ把握しておきながら、どうしてもっと早い段階でインターネット投票の実施を表明しなかったのかを不思議に感じています。

**市長**

4年前の時点で、「4年後に退職金のインターネット投票を行います」と表明すれば良かったということですか。

**記者D**

そうです。

**市長**

4年前はまだ退職金の投票を行うことを決めていませんでした。今年に入ってから様々な可能性を検討し、決めていきました。また、もともと4年前は、今回の市長・市議会議員選挙でインターネット投票を行うことを目指していましたので、その時点で退職金のインターネット投票をすることをなぜ表明しなかったのかと問われても、そのような事実がなかったからとしかお答えようがありません。

**記者D**

市長・市議会議員選挙でインターネット投票を行うことを目指していたのに、残念ながら国との障壁で駄目になったので、退職金に変わったということですね。

**市長**

インターネット投票を進めていくプロセスは、これに限らず続けていく必要があります。そのうちの1つとして、賛否両論ある退職金をテーマにし、これを決めるのには今回のようなテクノロジーを使うことがふさわしいだろうと実施しています。

**記者D**

そこの理解ができていませんでした。仮定の話ですが、市長・市議会議員選挙において、従来意図したとおりのインターネット投票ができていれば、今回退職金で行うつもりはなかったということですね。

**市長**

当初は考えていませんでした。

**記者D**

分かりました。

## ■選挙中に配布されたチラシについて

**記者C**

選挙中に市民の方から色々と情報をいただきました。今回、選挙を意識したチラシがたくさんポストに投げ込まれているということでした。前回の4年前の選挙の際に、元市議の亀山大二郎さんが選挙直前にチラシを何枚か配布しました。それに対し、4年前の11月、市長が亀山さんを名誉棄損で土浦簡易裁判所に訴えました。今回の選挙中のチラシの配布状況を見ると、おそらく前回以上に配布されているのではないかと思います。市長のチラシを見ると、8つの項目で、市政批判のクエスチョンに対し、「事実ではありません」とのアンサーを書かれていました。今回、特にたくさんチラシを配布したのは市議会議員に当選した酒井泉さんです。今回はその方を名誉毀損で訴えるつもりはありますか。

**市長**

いいえ、ありません。

**記者C**

なぜでしょうか。

**市長**

事実を事実として十分に否定していますので、解決はしていると思っています。

**記者C**

市政批判に対する反論を出しているのです、特段裁判で争うつもりはなく、前回と同じことはやらないということですね。

**市長**

はい。

**記者C**

前回、市長からは訴訟についての発表が全くなく、亀山さんから聞いたのですが、今回そのようなことはないですね。

**市長**

はい。もう全て答えが出ていると思っています。私のチラシが届いていない方は、もしかしたら信じてしまっている方がいらっしゃるかもしれませんが、私としては説明をしていますし、市民の皆さんにもきちんと理解をしていただいていると思っています。

**記者C**

市政に対しておかしいというチラシが配布されたことは4年前と流れが同じですが、今回はそれに対するアンサーのチラシを配布しているので、その反論は済んでいるということですね。

**市長**

そうですね。今回も色々なチラシが配布されていました。大変多くの枚数が配布されていたので、それに対して私が配っている枚数の方が少ないと思いますが、それでも良識ある方は、私のチラシを見ていただければ一目瞭然だと思っています。

終了